女學雜誌

第二百六十號　明治二十四年四月十一日發兌

宣教師派女學校

家政婦人の經驗

トルストイ伯

モルトゲの經驗

德育註解者ニ告

下六番町六番地　女學雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 260. April, 11th. 1891.

EDITORIAL:—To the Presidents of the girls Schools and to the Parents of the female Students. II.

MISCELLANEOUS:—The Secret of Longevity. (Count Moultoge); Condition of the Women in Germany (Concluded); An Interview with Miss Iwa Urin, the Charger of the Asylum (Concluded); Selected Poems; Count Tolstoi.

LITERATURE:—Japanese Poems.

NOVEL:—"Fuunkyō" (Concluded).

HOUSEHOLD SCIENCE:—How to make ends meet.

HUMOUROUS:—Curiosity.

CHILDREN'S COLUMN:—The Earnest Christian boy of Amakusa.

NOTES AND NEWS:

QUESTIONS AND ANSWERS.

CONCERNING WOMEN.

第二百六十號目次

社說　各女學校の校長、並に各女學生の父兄に告げ參らす（下篇）

兒籃　天草島の一少年

理學　エブシ○鍍金法○燒附ケ○ガルバニ鍍金

雜錄　何如にし長壽すべき、モルトケ伯經驗談○獨逸婦人の景況(三)婚姻のありさま(三好退藏君)○養育院世話掛爪生岩女史を訪ふ(生野ふみ子)○窓の音(山下石翁)○トルストイ伯

文學　和歌數首○花月の遊(樂翁公)

小說　淨瑠胸第十一回(雲峯子)

批評　やたらじま○七十二文命の安寶

家政　家の經濟を持ちし經驗(山下石翁)

隨感　教と學と(しのぶ)○事業(みどり)

笑草　好奇心

時事　帝室財產○議員○帝國議會○西鄉來○大原中尉○近頃の文章○婦人共立育兒會○ツル！婦人○合楠の女

廣告

私立 明治女學校 新入生徒募集

定期試驗終れるに付新入生を募る。普通科は五年卒業にて小學尋常科卒業と同資格の人を迎ふ。英學專修科は、毎日二時間の授業にて高等の英學を敎ゆ、自由に何れの組にも出席することを得。其他、國文、壽學、皆な專修科あり。職業科は、縫箔、裁縫、速記、繪畫の四科現に授業中にて尙ほ新入を許す。主計科は半年卒業にて、夏休后に第二期生を募る。尙ほ細則を望む人は、郵便切手二錢封入御申込あれ。

●英學專修科畧表

一年生
ユニヲン第一、第二、第三讀本譯讀(一週七時)
讀方、書取、作文各一時間(外國婦人)

二年生
ユニヲン第三、第四讀本譯讀(一週七時)
讀方、書取、作文各一時間(外國婦人)

三年生
第五讀本、文典、ヲセラス等譯讀(一週六時)
英講、書取、作文、讀方一時間(外國婦人)

四年生
イルビング文集、修辭學、ゴールドスミス小說譯讀一週六時
英講、作文、讀方、合四時間(外國婦人)

五年生
シエクスピア戲曲。ミルトン失樂園。ユゴ、悲史。
エリヲット、ロモラ。撰詩。批評。作文。修辭學等
(右十時間、大抵外國婦人)。

●漢學專修科畧表

一の組　王陽明文粋。荘子。詩經。唐詩選。
二の組　古文眞寶。日本人詩集。政記。
三の組　外史

東京下六番町
六番地
明治女學校

女學雜誌第二百六十號　明治二十四年四月十一日發兌

社説

各女學校の校長、並に、各女學生の父兄に告げ參らす。（下篇）

（五章）先輩の女學生

先輩は後輩を教ゆ。女學生を教ゆる所ろのものは、啻に其教師のみにあらず、實に彼等が先輩諸生も亦た彼等を導びくなり。故に、當今、世に時めける女學生の風儀何如んは、今后世に出づべき女生の上に、少なからぬ影響を及ぼす。

扨て、當世の先輩女學生は、何如なる人ぞと問ふに、一は、宣教師派の女學校より出でたるものなり。二は、高等及び尋常の師範學校より出でたるものなり。第一は、言ふ迄もなく只だ英學を旨としたるものにて、第二は、普通學を殘る所ろなく學びたるものなり。此二種の先輩女學生にして若し双び立つて世の后輩に影響せしとせば、則はち后輩の女生は、或は英學を旨とするものもあり、亦た普通學を重しとするものも出で來しなるべし。然るに、維新以來百事を西洋風に採り、万般の流行たゞ外國めかんことを欲するにありければ、時運の大勢遂に優勝の緣を領して、師範校の教育も亦た漸次に、西洋風を摸倣することとなれり。此に至りて、第一種の先輩と第二種の先輩とは、地位に甲乙の差等を生じ、第二種の先輩は久しからずして、第一種先輩人の后へに遠慮するの姿となり、社會が之を喝采するの贔負も自づから第一種の方に偏重することとなりぬ。もし、實力と實用との點よりして觀じ來らば、かゝる品定めは其當を失すること少なきにはあらじ、左れど世の流行の故を以て勢力に消長を來せしの由緣、爭そふ可らず、實際の變遷眞とに斯の如くにてありつる也。

斯て近年の先輩女學生は、宣教師派の女學生にてありき。宣教師派の女學生とは、英語を能く辨じ、英書を好く讀み、西洋の風習を能く心得、西洋風の感想に富みたるものなり。夫れ、文明外來の時世に於ては、外國風にてあることは即はち文明風にてあると云ふに同じきの心地し、虛榮を欲するの族らは、自然其躰裁を裝はんことを願ふものなり。況して、當時第一流の先輩女學生は、皆英語に巧みなり、英語に巧ならずして

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

先輩の地位に居るもの殆んどなし、偶たま在りとも社會之を喝采せず、喝采すとも何となく巾の利かぬ樣に見ゆるを見るに於ては、後輩の女學生たるもの、爭でか英學の修業に狂奔せざらんや、たとひ見す／＼實功の目當なしと知るとも、社會の尤とも優待する所ろは、即はち人間の尤多く輻湊する所ろにして、凡俗の人情之を如何にともすると能はず、一犬虚に吠て万犬實を傳へ、聖人亦時ありてか鄕に化し、滔々たる時勢大ひに流行して、遂に英學汎濫の大洪水となりぬ。

（六章）感化一新

吾人は、一種の保守家に類して、只徒らに英學を擯斥するものにあらず。凡そ今日の日本に居て、高等の學を修め、又た純潔の文學を味はんと欲せば、勢ほひ外國語の力を假らざるを得ず。而して外國語の中に於ては、英語を採用するとの至つて便なるとを承知す。吾人は、或る目的の爲には、今も尙ほ英學敎育を重んずるもの也。

たゞ、吾人が夙に擯斥し、大いに擯斥し、今后一層擯斥せんと欲する所ろのものは、お飾りの爲に英學を學ぶものと、普通學の爲に英學を學ぶものとの二つ、即はち是也。

扨て從來宣敎師派女學校より出でたる書生にして、若し高等敎育の爲に、其英學を用ゆと云はゞ可なり、又た通辨と云へる一種の職業の爲に之を用ゆと云はゞ亦可なり、吾人は二つ乍ら之に同意す。左れど若し、普通學の爲めなりと云はゞ、其人の非常なる損を爲したるとを歎かずんばあらず、何とあれば、普通學は、英學に假らずして能く成就するとを得るのみならず、英學に據るよりも一層簡易に、一層入費少なく、一層實益多く成就するとを得たれば也。又もし其人にして、お飾りの爲めにせりと云はゞ、吾人は其人の見識の卑きとを歎くの外なし。又もし何も考へで爾ありけりと云はゞ、吾人は、其人に熟考を要むるの外なし。

要するに吾人は、高等女學生が、其高等學の爲に英學を入用すとの思わくを、後輩女生の上に及ぼすは、差して構ふ所ろなしと云へども、只從來の如く、凡そ女學生たらんものには皆な英學を要するが如くに見せかけ、女學生に英學と束髮とを欠くは、人に三本の毛を欠きて猿に類すと歎かしむる程の影響を及ぼすに至ては、嗟歎此上なきとなり。

凡そ世の中には、動かすの人甚はだ僅かにして、動かさるゝ

の人極めて多し。左れど動かさるゝの輩らは力至つて弱く、只流行に隨つて化せんとを希ふもの也。左れば、心あらん女學生は狂人と共に走らず、固く決心して自から新流行の源となるとを決心せざる可らず。而して、其父兄も亦た之を奬勵し、其愛子を擧て、世上流行の爲に弄殺せしむる勿れ。女學校々長に至りては、毅然舵を握つて、方向を一轉するの覺悟なくんばある可らず。

（七章）　地方女學校

普通學には英學を切要とせずと云ふと、一般の氣風とならば、女子教育の行はるゝと、今日よりも更に廣く汎ねからんとす。今日の普通女子教育は、英學流行の爲に、反つて大ひに妨害せらるゝなり。

そを何故と云ふに、英學都會に流行して、都會の女學校譯もなく只管らに英學を旨とするが故に、凡そ女學校には英學を欠く可らざるものと感じ、而して英學を教ゆるには是非とも西洋人なかる可らざるを以て、凡そ女學校には是非とも西洋人を欠く可らざるものと感ずるに至る。斯て、地方田舍に女學校を設け、僅々四五十名の女生を教ゆるに、西洋人を雇ふと頗ぶる難きにより、勢ひ、女學校設立の念を思ひ留るか、もしくは宣教師派に頼み、無給にて女宣教師の來教を請はざるを得ざるの仕儀となる。而して、思ひ留り、女學校を設けざるは、則はち其地の女子教育を杜絶したるの姿あれども、女宣教師を頼みて、女學校を開きたるものも、成功大抵捗々しからず、結局女子教育の發達に差したる助力なきに至るものなり。何となれば、都會にてすら、普通女學に於ける英學は、何の益もなきに、地方の豪農何の何兵衛が娘にして、入學四五年の后ちは、出でゝ又何の何兵衛が息子に嫁し、小作人を愛護するか、芋大根などの管督に助勢すべき内夫人にして、何如に英語に巧みなりとも、之を用ふるの場所なきを何如にせん。

左れば、田舍の女學校は、英學流行の爲に、反つて其發達を妨害せらる。もし、普通學には英學を要せざるとなり、即はち、田舍の普通女學校には、英語教師を入用せざるとならんには、現今未だ得て女學校を設けざるの地方も、今后は續々之れを設立するに至るべし。既に設立せられたる女學校も、學科の年限短縮し、教授向實益に近づくを以て、入門する

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女生の數亦增加するに至らん。即はち、英學を廢するは、女子敎育の普及を助くるものなり。

（八章）宣敎師派女學校

斯く論じ來りては、吾人は勢ひ宣敎師派の女學校に一言を呈する所ろなきを得ず。

日本に於ける女子敎育の開發者は、宣敎師諸氏なり、男女同等の理を吹込み、女子亦敎ゆべきとを覺らせ、更に進みて、女子は社會の女王なるとを理想せしめ、埋もれし黃金を堀り出して、見よ燦然たると如此しと指ざし示したるの先導は、宣敎師諸氏の惠にして、日本人が深く謝すべき所ろのものなり。諸氏が本國は、文明の道に於て我國に先立つと一步なりき、故に來りて我國人に一先步の光を示すは、諸氏が務にてありき。吾人之を感謝せずばあらず。

然れども、普通の女子敎育を行ふに至ては、到底諸氏が任にあらず、諸氏もし之をしも敢て任ぜんとせば、吾人は之に向ふて、同樣の禮謝を呈するとを敢て得ざるを悲しむ。諸氏が本國の高等學校に於ては、古典もしくは外國語を用ゆると少なからず、左れど其普通學校に於ては、たへて此事なきにあらずや、況んや外國人を雇ひ、其外國語を用ひて、普通學の敎授を請ふの學校、諸氏が本國中の何の地にかあらん。我國に於て、普通學の敎授に諸氏を需めざるの理之に似たり。否な、他の男子學校に於ては、尙多少之を要するものもあらめ、普通の女子敎育に於て、諸氏を要せざるの理に至つては、上來屢ば陳述して殆んど餘すなし。諸氏は普通女學に勞するとを要せず。

然らば、則はち、今后諸氏が尤とも力を盡すべきの地は、高等の女子敎育と、貧民の女子敎育とにあらずや。此二つの事務は、日本人が私しに盡力して未だ十分に爲すとを得ざる所ろ、而して諸氏が敢て當り、恐らく功を奏するとの極めて多き所ろなるべしと思ふ。

貧民の女子敎育に至りては別に説あり。他の一は即はち、諸氏が高等女子敎育に奮發勵精すべきの事なり。諸氏が目下の任命實に此一點に存す。もし之に當らんとせば、生徒の多きとを求めずして、之を十分に敎育するとを旨とせよ、廣く敎育を施さんとを祈らずして、高く敎育するとを第一とせよ。之が爲には、校舍の大ならんより、器具の備れるとを要し、生

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

徒の多からんより、其就學の久しきとを要す、然るに諸氏が策此に出でず、他の派の傳道會社にて校舍を新築すれば、忽まち之に競ふて、校舍を改造し、尖塔高く聳へ、層樓巍々乎たれば、則はち大得意の體あり。而して、彼の尖塔は天文臺に用ゆるにもあらず、此層樓は、完備せるラボラトリーにもあらず、入つて窺へば、是れ平々凡々たる普通學校の教場たるのみ。

左りとて、諸氏が普通女子教育に掛念するを無用と云ふにはあらず、諸氏もし之に執着せば、教授の過半と、教頭の全權とを日本人に一任し、日本人の指揮に甘從して敢て之に着手するの外ある可らず。何んとあれば、普通學に於ては、日本文を主とし、日本的を主とし、隨つて日本人を專要とするがゆえ也。

然るに、普通學を目的とするに似て、日本人に從ふとをせず。高等學を目的とするに似て、たゞ生徒の多きを求め、家の廣きを求め、器械の完備に頓着せず。之を祈るかとすれば、彼を求む、之れ豈に良策ならんや。

（右主筆病中の筆、敢て文辭を修めず）

兒籃

天草島の一少年

昔し織田信長の頃ろ、基督教西國一面に傳はりて信徒の熱心驚ろくべき時の頃ほひ、肥前の天草に年極めて幼けなき童子ありけり。大内家の公達或る時之に問ひて曰く、汝は何と名づくるや。童子答へて曰く、我はキリストフールと稱すと。公達の曰く、何ぞ其の名の鄙しきや、元來他の名あらざりしかと。童子の曰く、固と他の名ありつれど、われ既に基督教の門に入り其信徒となれるを以て、特更らに名を更めたりと。公達曰く、憐れむべし、此の小奴、汝ち果して基督信徒なる乎、此宗旨の僧は汝が如き童兒を殺して食ふものなり、汝も永く生存らふ可らず、日ならずして食われ殺さるべしと。童子たえて怖るゝ色なく、靜かに答へて曰く、人を殺すは基督教法の嚴しく禁ずる所ろあり、かゝる妄言をもて聖教を誣ひんとするは、佛教徒の所爲なるのみ、凡そ天地間に在りて眞の神と稱す可きは、天地の造り主、宇宙の主宰たる上帝を除き他に一つとある可らず、公等が信向する神佛は石または木の

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

塊にして更に感動するものにあらず、反つて惡徒の形を象どりたるものにて遂に地獄の火にて燒かるべきものなり、之を以て之を信ずるものも亦共に燒殺さるべしと。

公達之を聞て大ひに忿怒し、急に佩刀を拔き、大喝、童子を叱して曰く、汝ち小童、我目前にて神佛を汚すと奇怪なり、直ちに謝すれば罪を容すべし、然らずば一刀にて切て棄んと云ふに、童子は毫も驚ろきたる樣なく、恬然として答ふらく、公は武器もなく、防ぐともせざる我の如き一小童を殺して譽れとなすか、遮莫公は、其白刄を以て何如にして我を害せんとする乎。我が靈魂を刺すか、若くは靈魂の躰を出んとするを防がんとするか、もし果して然るとあらば、我れ少しく恐るゝ所ろなきにあらず、左れど公は却つて我靈魂の天國に歸る道を開くものにて、即はち我の常に望む所ろなり、何如にとなれば、公もし我をして天國に入らしめば、我は今ま公に呈する所ろの生命よりも猶ほ善きものを得べければ也と。

公達は此答を聞きて、數たび嗟歎し、突然童子を抱きて曰く、我が言へる所ろは、汝の勇を試みんが爲にてありしと。此后ち公達は所々に於て、此童子の事を語り、基督敎信徒は、幼なきものも尙ほ剛膽大勇なりと、只管らに賞歎せられぬ。

理學

小糸

○エブシ

エブシを爲すは、先銀器に限る樣なり。其法、少許の硫黃を炭火にて燃し、其焰に銀器(簪金、金具の類)を觸るゝときは、忽ち薄黑き色に變じ、兩三度觸れしむれば、其度毎に黑味を增す、由て其望む所の度に至らば止む可し。其理、銀は至て硫黃と結び附き易き金屬なるを以て、硫焰に觸るれば、直に化合して、黑色の硫化銀を生ずる故なり。

○鍍金法

鍍金法には種々の方法あり。されど、其中にて主なる者は、燒附け、ガルバニ滅金の二種あり。ガルバニ滅金を、時に或は、テンプラと云ふ。其法下文に陳る如く、テンプラを揚るに等しきを以ての故ならん。

○燒附け

水銀は諸金屬を溶かすの奇性あるものなり。故に、之を用ひて、黃金或は銀を溶かし、之を鍍金せんと欲する金屬の面に塗抹し、炭火にて燒く可し。然るときは、水銀は低溫度にても蒸發する者なるを以て、盡く飛散すと雖も、黃金或は銀は

依然として、其面に留るなり。此法を七度くりかへして施せし者を、俗に七度燒と云ふ。上等滅金の部に屬す。本邦にては、昔時主に此法を用ひしと云ふことあり。

○ガルバニ滅金

黄金滅金に用ふる液は、金粉を王水に溶し、能く煮つめて酸氣を除き、更に蒸餾水を加へて、之を薄め、シヤン、ボツタシユムを入て、沸騰して製するなり。但、此際用る所の金粉と、シヤン、ボツタシユムは、同量にして、王水は鹽酸と硝酸を混合して造可し。又銀滅金に用る液を製するには、シヤン、銀二匁と、シヤン、ボツタシユム、十匁を、二百五十匁の温湯にて溶解する也。如斯して製したる液を、玻璃或は陶器製の箱又は鉢に入れ、二本の金屬の棒を、器上に横へ、之にガルバニ電池の消極線と積極線を、各別に結附け、消極線を繫ぎたる棒には、鍍金せんと欲する物を、金線に附て吊し、積極線の棒には黄金滅金なれば黄金、銀滅金なれば銀の、薄き板を吊し置可し。然ときは、液をしていつも同じ密度にてあらしむるなり。且黄金滅金のときは、液の温度を、每に攝氏六十度より七十度の間に保たしむ可し。銀滅金のときは、之より低き温度にても差支へなし。

雜錄

何如にして長壽すべき、

モルトケ伯の經驗談

澳國の智人識者相集つて一の衛生會を設く、過般世界各國の高名なる人にして老成に到れる者に書翰を發し、長壽を保つの方法如何につき問ふ所ありき。是れは會員自己の參考に供し、一は社會公共を裨益せんと欲してなり。問題を分ちて多數の目となせしが、要するに其平常の生活及び其長壽を保つの大原因を發すにあり。第一に到着せるは、獨逸の老西鄉たるモルトケ伯の答案にて、大率ね左の如し。世の長命高壽を希ふもの、輕々に看過する勿れ。仙者豈不死の藥石を賜らんや、只能だけ長く世にありて、盡す所あらんとこそ願しけれ。

幼年時代

問　幾歲にして御身は學校に登り始めしや、亦一日何時間勉强し給ひしや、

答　紀元千八百〇八年即ち八歲の時に出校し、最初の二年間は一日四時間勉强し、其後は一日十時間勉めたり。

問　幼時御身は健康なりしや、將た游弱なりしや、

答　健康なりき。

問　御身は幼時市中に住み給ひしか、將、田舍に耶、

答　十歲迄田舍に住みき。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

問　毎日定めて戸外に逍遙せしは、何時間なりしや、
答　只數時間のみ、定りたる時間なかりき。
問　強き運動を爲し且つ躰育に熱心なりしか、
答　定まりたる運動さてせざりし。
問　幾時間眠りしか、
答　十時間。
問　御身幼時の生活につきて、何か參考さすべきものあらば、承はりたし、
答　幼時は不愉快さ不幸の内にありき、且家鄉を遠ざかりき。

成人時代

問　御身は生涯の事業の爲め地方にて用意せしや、市街にて用意し給ひしや、
答　市街に於て。
問　一日何時間働き給ひしや、
答　時に依て勤むる時間は同じからざりき。
問　御身の健康なる原因をば何に歸し給ふか。
答　生活上の萬事を節制せし事。晴雨風雪に係はらす、必らず戸外の運動を爲し、一日も甞て戸内にのみ止らざりし事等に歸せんとす。
問　一日何時間就眠せしぞ、
答　八時間より九時間位なりき。
問　老年に至りて生活の模樣に變更し給ひし所あるか、
答　曰くなし。
問　五十歲、六十歲、七十歲、八十歲の頃は、一日幾時間位づゝ働き給ひしや、
答　時の必要に應じて働けり、故に甚だ多く働きし事もありき。
問　御身の攝生法は幾何なる事にてありしか、
答　八十六歲に逹るまで、乘馬運動を爲せし事。
問　今は一日に何時間戸外運動を爲し給ふぞ、
答　我欲する所に任する日は、夏時は半日を戸外に消す。
問　今は何時間就眠し給ふや、
答　今尙八時間眠る。
問　殊更有益の滋養物は何物なるや、
答　今食する所は甚だ少し、重もに食物を煑出したる汁を用ゆ。
問　御身が今の如く高齢に逹し給ひし原因は畢竟するに、如何なる事情、如何なる事柄にありさするか、
答　神の厚恩さ、生活上の節制に原づくさ思ふ。

獨逸婦人の景況

三好退藏君

（三）婚姻のありさま

婚姻の事は、アチラでも父母の免しを受ける。父母がなければ、親屬其他知己の許しを受ける。二十五以上になつた婦人は、親の許しを得んでも婚姻する事が出來ると云ふ事がありますが、是は未だ日本にて法律上では定り居りますまい。婚姻の式にまねかれ行きし事があります、婚姻は餘程ドーも大事にして居るので、アチラでも離緣もありますけれども、日本の樣に離緣が多くない、又此宗教の上から夫婦一躰と云ふ事が嚴しくしてあるのでありますから、此結婚と云ふ事は餘程正しく、餘程、何んと申しませうか、餘程壯大にして、公衆によく分かる樣になりて居る。今日は身分を取扱ふ役所があるからそこで婚姻が出來ます。けれども、宗教を奉じて居る人が多いから、やはり會堂に參り其處で、立派な式をあげる風で、其時が、モ、一生一度の晴れの場所でありますから、澤山の見物又知己朋友其他の客があるのです。それから會堂

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

で式を擧ぐる其前晩、此家の女の親里で其式をあげる、式でなく即ち祝ひ、前祝と云ふべき物である。其時には、朋友親厨打より、賑々しき式がある、之も貧富に隨て勿論違ひませうが、私が招かれた處の家々、此御馳走騷ぎである、最も御馳走は立食位である。其序に婚禮すると云ふ女の兄弟姉妹其他近い親屬が集つて居ました。其時には、丁度コチラに於ても婚姻の時にさまぐの事をする風俗が處に依て變ります通りに、コヽでは何か碎れ物を外にブッつけ、庭になげて、音をさせる。尤も、コップやガラスの樣なものを、やたらに碎しても耐らんと見えまして、やたらに碎すのでなく、大概碎す道具があり、夫をあげこはす樣である。

養育院世話掛

瓜生岩女史を訪ふ（下）

生野ふみ子

女史は去る頃又、豆腐糟を以て、味噌を造ることを發明せられたりと。其語に、豆腐は素と、豆より製したるものなれば、其糟いかで味噌とならざる事あらむと、之れに麴及び鹽を混ぜて試みたるに、果して良好なる味噌を得たり、殊に之れにて味噌を製するには、豆を煮、又之を搗くなどの手數もかゝらぬを以て、洵に簡便にて製することを得るなり。然れども或人は妾が、從來肥料に使用し來りしものを、斯く悉く食品となさんとするの擧あるを見て、危ぶみ問ふて曰く、君が肥料を食品とせらるゝは善し、然れ共爲に肥料の數を欠きて、百姓等が君を怒らば如何と。妾之れに答へて、若し百姓等が、肥料の減ずるを憂ふるならば、妾別に計あり、試に四尺桶を製して、各戶の井戶端に置き、日々洗ひ流す處の白水を盡く此桶の中へ受け入れしめよ、さらば、漸次に其底に濃き白水溜るべければ時々其上部の淡き水を去りて、其餘りを幾日も貯へ置くべし、さすれば、遂には其水臭氣を放ちて、人糞にも勝る肥料となるべし、妾一年試に之を用ひ、前衛の肥料となしたるに、其年は、別段に見事なる實を結びたりと說たるに、其人點首て去りたりき。去れど全市擧りて、桶を塡めさすといふ事も容易くは行はれ難き事なるを以て、つい其儘に過ぎたれども、白水を徒に流し去は、實に惜べき事あり。かく天地間のもの、心を用ひて之れを見る時は、一として捨べきものはなき程なれば、爭でか人間と生たるものにして、世に用なきものあらんや。妾は是等の食品に就て、一二の成

効を奏してだに、其嬉しさは人知れぬ程なれば、今若し人間の內、世に捨られたるものを救ひて、有用の人となすならば、なんぼう樂しき事ならむ。妾が今日まで、些、稚兒の爲に盡したるは、皆此精神に外ならず、此頃此養育院に着して、多くの稚兒と、貧病者とを見て、坐ろに涙に暮れたりき、其は大都會なる東京なればこそ、斯くまで多くの人を救ひ得らるゝ事なれと、いと嬉しく思ひたればなりと。一語一句涙と共に語られき。其熱心にして、無邪氣なる狀、嗚呼是女史の全心全躰は、只だ慈愛てふ成分にて組織せらるゝかと、怪まるゝほどなりき。要するに女史は、當世風に犠牲獻身の文字を口にするの人にも非ず、又社會の爲め、國家の爲めなど、理屈めきたる事は毫もいはず、而して聖言の働きを着々なし居らるゝは、自然に近き處あり、實に感稱すべきの人なり。其談話中、地獄樣、觀音樣などの語、屢口頭に上りたるを以て見れば、女史は一種の佛敎信者ならんか。何にもせよ、女史は確に一の信仰を持し居るの人なり、殊に其育兒の精神に至りては、一に廢物利用の精神と、其歸を同じうするものゝ如し、珍らしき人といふべし。其詳細なる履歴に至りては、他日更に讀者に報ずる所あるべし。

窓の音

山下石翁

やまと歌の、感に徹し靈に穿つもの尠なしとせず。仔細に之を考ふる時は、五句の短文字反りて一大文章に優るの哲理を存す。われ世の人のまゝ忘れて顧みざるものを折々に思起し、口頭に吟じ更へて其味わいを新たにすと云ふ。

西行法師

よしの山さくらが枝に雪ちりて花をそげなるとしにもある哉

評。春は復りぬ、花は常に開くべし、而して雪ちり皆未だ開かず、世上の願ひ、つれに大牢れ終り。

よしの山やがて出しとおもふ身を花ちりなばと人やまつらむ

評。既にして花開く、花の開くは則ち散らんとか祈らるの初めなり。定めなきの內閣、何の時か、花ちりなばと待たぬ人やある。

風になびくふじの煙の空に消て行衞もしらぬわがおもひかな

評。あゝ人世の末期の歎常にかくの如し、永世か信ぜざる人の憂思極まりなき哉。

兼好法師

こし方の世の憂き事をかぞふかもねられぬ夜半の鴫の羽かき

評。天王寺の夜の歎き、遺恨胸に滿ちて感慨迸しり出づるとき、血情再たび燃えて人何の日か此感なからん。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

慈覺大師

おほかたの過る月日をながむれば我身に年のつもるなりけり

評。半生の日月、たゞ歳晩の白髮の上につもれる心地す。

惠心僧都

世の中を何にたとへんあさぼらけこぎ行く舟のあとの白ら波

評。波の路消え、暫らくして霞、船を包む、船則ち無し、何處にか行ける、何處にか逹すべき、茫々蒼々。

小野小町

色見えてうつろふものは世の中のひとの心の花にぞありける

評。せめて色なかれかし、左らば他日怨むともなけん。情けめきて情けなき人こそ最とも情けなけれ。世人悉く無情と云はゞ、已れ何なもて泣かん。有情の人情なきによりて、我の涙つきざらんとす。

業平朝臣

終に行く道とはかねてきゝしかど昨日今日とは思はざりしを

評。强いて醉ひ、一生を睡ます、然れども一生の末期また放念する能はず。

俊成卿

あれわたる秋の庭にはあわれなれまして消なんつゆの夕ぐれ

評。忍れさわぐは倘ほ心にさやかなり、消て行くの恐ろしく何如ん。

今はとて身をかくすべき山里にあまりくまなき月のかげかな

評。將に落ちんとする時、光つれに高し。

トルストイ伯（上）

雲峯子

世上幾多の文豪中、近世其著書の最も多數の人に謹讀せらるもの、蓋しトルストイ伯の上に出るものなかる可し、「我信仰の成立する所」及び「懺悔」と題する二書の如く最も其人物の如何を知らしめ、亦其著者の知遇を得んと望ましむるものなり。スウヰーデンの人、伯を訪へるの記あり、大意を讀者に示さん。我々（訪問者）は魯國に深く入りし時、或日トゥーラーに止りぬ、此處は、モスコーを南に離る事鐵車にて半日を費す程の路程なり。宿泊せし翌朝、トルストイ伯が懇篤にも我等を馬車にて迎へ給ふを聞き、我等は喜びて伯の居宅に向つて出發せり。途上伯の人物は如何なるべきかと想像するのみ、他に思ふ事もなかりき。彼の「懺悔」中には、彼が嘗て名利に狂奔せし事を記す、されど「我信仰の成立する所」と題する書物に於ては、彼が精神上非常の發達を爲せしを示す、即ち犧牲獻身の極に逹する事を顯はす。是に由て見れば、生涯の前後に於て甚だしき變化を爲せし事明かなり。伯の家は、隣人と隔てを爲すの垣根ありて、人と親しく往來して訪ふ事もなきが如し。思ふに彼今は、嚴めしき垣根を以て宏大壯麗を裝ふを好まざる可し。馬車石門の間を入

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

り、老樹影を爲す所の一屋に近づき、戸外に止りぬ。伯の令孃小兒を伴ふて出で迎へぬ。間もなくして伯また出で、迎へ給へり。伯は美貌中威嚴を保つの人なり。淡泊に心切に眞心より我等を優待し給へり。夫れより直ちに客室に入り、愉快ある會話に時を移せり。

伯の動靜擧止は甚だ温厚丁重にして、家内の人亦之に則る。故に我等が深く感じたる所は、家庭の一點にてありき。此時「我等は斯る美はしき家庭ある事を如何にして先に想像し能はざりしか」と自ら疑ひし程ありき。我等暫らく語りし後、直ちに茶室に入り、亦打つゞきて談話せり。我等は何事に限らず、思ひのまゝに語り、且つ問ひぬ、何となれば、伯は謙遜柔和にして、聊かだも我等をして、伯が高名偉大の人たるを思はしめざればなり。伯の心中只一片の好意ありて、人を懇ろに待遇せんとするに餘念なきが如く見えぬ。其偉貌勇姿は、過る六十年間に於て、少しの勞苦をも爲さゞりしが如く、俠骨稜々たり。伯に接する者、何人と雖も、恐らくは、其人物に服する所あらん事を望まざるものあらざる可し。時に於て、伯は冷酷過激の性あるが如くに見ゆ、されど、是大ひなる誤謬にして、其長所を認むるに於ては、直ちに此思想は消失するに至らん。我等が停在せし事暫時なりしが、伯の正直、公平、無私等の點に於て、大ひに悟る所ありき。一例を擧げて云はんに、伯が我等の内の一人に向つて、「御身は戰と平和と題する余が著書を讀み給ひしか」と問ひしに、不幸にして其答へは「否」と云ふにありき。斯る有名なる大家の傑作とも云ひつべき著書を讀まずして、其人に面會を乞ふ抔とは、甚だ失禮の事にて、世上の大家は勿論、左程名高からぬ人すら、之を賤めん。然るに、伯は少しも意とする事なく、平然として談話をつゞけたりき。されど伯の夫人は、傍らにて聞きかねけん、「速にそを讀みね、妾の思ふ所によれば、伯の著作中第一の佳作なりと思ふ」と獨語せられき。此に於て、訪問者は何も云ふ事なく、暫しは一同默然たりしが、伯の心事宏快なるに感ぜぬ者ぞなかりける。

愉快なる談話打つゞきて、知らぬ程に何時しか一日も過ぎ、午後六時に至りて、晩食を取りぬ。伯は菜食家にして、且禁酒家あり。されど自ら肉食せざるが爲に、人にも肉食せしめざるが如き偏屈の意見を抱く事なし。故に他人に向つては、心切に肉をすゝめ、饗應せり。自ら好まざる者なりとて、人の食するを

妨げる事なく、意見を異にする所の人と雖も、之を嫌ふことなし。何人と雖も、伯に接近する以上は、其胸襟を開きて自說をも吐き、亦伯の信ずる所思ふ所を明かに聞くを得べし。彼の精神は、靜肅寬厚なる所、よく彼をして人を容れ、亦靜かに人の云ふ所に耳を傾けしむ。彼が靜かに聽くと云ふは、彼が唯々諾々何をも人の云ふ如くになすと云ふに非ず、自ら信ずる所は固く執て動かず、時に依ては他人の說を攻擊辨難する事さへなきに非ず、自ら信じ、且つ思ふ所は固くして變はる事なし。伯は放恣にも非ず、自棄するにも非ず、人の云ふ事につきては眞面目に聽き取るなり。

文學

池袋清風大人批（東京案山子の屋社中）

春月

高村高彦

、、不忍の池の柳やけふるらんおほろに浮ふ春のよの月

江岡きよ子

、春の夜の花もひとつにかすみつゝ(うち)木の間にしはし宿る月哉(すゑ)(かゝる)(のかげ)

八千代

、嵐山峯の櫻もほの見えてさか野にかすむ春の夜の月

評。さかのにかすむさは宜しからす

春雨

山口つろ子

、、うちかすみ降とも見えぬ春雨に立出てこそ袖もぬれけれ(に出れは)(の)(にける哉)

同

、、ふるまゝに軒の玉水音そひて夕しづけき春雨のそら(落ろめ)

早蕨

八千代

、春柳のかげふみ分けて行く道のかたのゝわらひ手折るうれしさ(けふかな)

みれ子

、家つとに手折て行かんあし引の山路のわらひもえ出にけり(花を見て歸る)(春のさわらひ)

花月の遊び（つゞき）　樂翁公

餘りに朝より、珍しく晴れたる日なればとて、かねて簑も、傘もはなたで居しが、はや艫をしたて、漕ぎかへるを、いかに此花を見すてゝかへるは、かりかねにつらさやならへる、艫の音ばかりまちつるよなど、口々に笑ふを、耳にも入れで、漕ぎ去りぬ、いつかその雲の、いとひろごりてけるかな、いともかくは露も知らず、日のかけろふも知らず、けふはあつき事なりとて、肌ぬぐもあり、又は衣などぬぎて、馳せありくもありぬべし。雨に先だつ風の、ひと通り明落たればこそ、花よと思ふものもなく、ひさご明たてたれば、たゞ驚きて居るがうちに、雨の降出たり。初めは、心地能き雨などゝもいひたらんが、のちには人の群うたの音もせず、馬を馳せてかへるもあれば、驚きあはてゝ、堤よりまろび落るもあり、女などは、いといたう、見苦しきまで、あはてふためきて、始め裝しをも、自ら夢とや思ふらんさまなり。況して酒に醉て、ぬるとも知らずがほに、わらひなどするもあれば、思ひよらぬ愚なる雨かなと、怒り罵るもありぬべし。

小説

浮雲胸　雲峯子

第十一回　眞樂天

舞踏會場妙音起り、紳士淑女躍り樂しむもの豈眞の快樂ありとせんや、彼等は眞の快樂を知らざるなり、故に彼等は浮雲の如く輕煙の如く忽ち消えてあとだも止めざる快樂を貪りて止まざるなり、嗚呼是眞に空の空、虛の虛。

なみ子は久しく虛樂を貪り、空樂に耽りぬ、蓋し自から其虛樂空樂たるを知らざればなり、眞誠の快樂の何たるを解せずんば到底世の榮樂の空虛なるを知る能はず、一度小說界に名を擧げて揚々自得せしも小說熱冷却してより世人亦なみ子を小說家と目するものなく、演說會場拍手喝采の內に滔々辯論せし時、女子の演說、珍らしとのみ聞きたりし人も今や亦顧みる人だもなきに至れり、さればこたびは結婚によりて樂しき世をば送らんとこそ思ひけめ、如何にせん道に從ふの人に非ずんば眞の幸なく、浮華と快樂とは相伴ふを得ざることを、或は衣食の美なるを望み、或ひは交際の廣からんを欲し、以

て心の滿足を得んとせり、蓋し平常家にありて樂しむ所なければなり、晝間良人は出務に餘暇もなく、夜に至りて歸宅すれども睦まじく語る事もなし、偶ま日曜日の休暇あれば良人は親睦會也、懇親會也抔とて朝より家を出で夕に至つて歸る事あり、歸らざる事あり、結婚以前は斯る行爲はなかりしと云へば良人の心中樂しからぬにや、なみ子を娶りて數月内は左程不良の行ひありとも見えざりしがなみ子が舞踏會に出で て交際の事に心を傾くるに至りし頃より愈々不愉快なるにか酒臭紛々兩脚踏む所を定めざる躰にて歸宅し、なみ子を叱咤する事毎夜なり、始めの程はなみ子も堪え難く思ひ、靜かに理を說き、或は烈しく怒りし事も多かりしが、良人を和ぐる功とてはなく却りて其怒氣を增すのみなれば果ては默して聞くに至れり、默すれば良人は愈激し、夜一夜に言語も暴くなり、遂には離緣とか放逐とか云ふに至れり、滿天下の男子を壓倒し、女權の大論を高言せし女傑(女傑と云ひ得可くんば)も一男子の暴橫を如何ともする能はざるか。

なみ子は一度鹿鳴館に至り、人の樂しげなる樣を見て愈羨ましく思ひ、人なみ〳〵に遊び戯るゝ事を得ば如何に愉快ならんと想ひ、尙つゞきて出會せし事數度なりしが斯る處に集る人は皆冷々薄々一時の遊戯を貪らんとするに外ならねば決して人を顧りみ、懇切に待遇するといふが如きは萬々ある事なし、舊來の交誼あるものをこそ心切にも待遇するなれ、官位高く、黃金多き人をこそ丁寧にも顧みるなれ、なみ子の如く位階とてさほど高からず、名聲とて高く聞えざれば紳士淑女多くは冷遇するに過ぎず、なみ子は是だに快からず、舞踏會に出る毎に悲憤に堪へがたきに、近頃は良人の行爲また甚しく亂暴に陷りしかば今は何をか忍ぶべき、今は心氣漸く衰へ、空しき事を企圖するの念も起らずなりぬ。

或日良人は例の如く酒氣を吐き、顏色を赤くして歸りぬ、なみ子は机に凭て頭を垂れ、ハンケチを顏にあて打沈みてぞ見えける、良人の歸りなりとて車夫の門前にて呼ぶ聲する故直ちに玄關に立出でゝ迎ふ、良人は例日より尙心地あしげにてものをも云はず急に立入りて坐につきぬ、默して居たりければなみ子は「晩食を供すべきや」と問ひぬ、良人は言葉あらく「はや終りぬ」と答へたるのみ、暫らくしてなみ子を傍らに呼び亦例の叱責あり、聞に堪ぬ言語も多し、果は亦離緣すと

の一言より、今日立去れ只今直ぐに」と云ふ、なみ子は坐して涙に咽び、一言の返しもせず、良人は益々いら立ちて遂には腕力をもて逐ひ出さんとまでなるにぞ、なみ子は此時始めて「妾の罪大ひなり、願くは免し給へ」と云ひぬ、女中も傍らにありてなみ子の爲めに詫びるにぞ、良人も少しく和ぎぬらん、其夜はそのまゝにて何も云はずなりぬ。

翌朝例の如くなみ子の良人は出でゝ務めに行く、なみ子は獨り家にありて思ひに沈む、過去の事をさま〴〵思ひかへして心は亂麻の如し、虚榮の夢、空名の妄念、皆非なりしと心づき「兩親の膝下を離れてより殆んど十歳、何事をかなしけん、何をか學びけん、嗚呼一事の成るなくして優渥の恩惠を仇になしぬ、一片の眞情なくして友人の厚意も空しくなしぬ、親戚に對するの罪甚だ多し、人に對するの無禮亦た數ふ可からず、良人に對して、殆んど詫ぶるに語なし、如何にして可ならん、良人の云ふ如く去つて何處にか行くべきか、止る可きか、そも面目なし、今は死あるのみ、死すとも大ひなる惡罪は償ふ可からず、行く可きか、止る可きか、死すべきか、人に語らんか、良人に如何に謝せん、我過去に於けることこそ空の空とも云ふ可けれ、嗚呼々々苦憂將に死なんとすと獨りごちては泣き、泣きては亦悔悟の語を繰りかへす、歯をかみしめ、顔を覆ふて聲を惜まず泣く、悲痛慚愧の情胸に充溢し今は我と我身が恥しさに身の置き處もなきが如く、心は周章狼狽狂へるが如し、前後も分かず泣き居たり。

悲む時は幸ひなるかな、安慰遠からずして來る可ければなり、嘗てしづ子が撓まず屈せず、言語に於て亦書簡に於て告げにし事ども今なみ子の心頭に浮び、其事の眞なるを悟りぬ、殊に宗敎なきの家庭は幸福あらずと云へりし事を深く感じ、誠の愛、眞の信、以て過去の非を悛ため、良人に對するの務めを盡し、空榮虚傲を去つて道に就かんと決心せり、斯る時にこそ實に心底より出るの祈願もするなれ、亦友人のなつかしさも知り得るなれ、なみ子は思はず机に伏して上帝に罪を悔ひぬ、されど未だ心安からねば直ちに家を出で、車を走らして何處にか行きぬ。

商買上の都合によるかしづ子の一家は東都に移轉するとて日本橋のあたりに宏壯の家を新築しつゝありしが去月落成せしとて一家上京せり、此處に一層業務を擴張せしかば出入の人

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

絶ゆる事なし、斯く盛大になりても其内の睦じさ前と異る所なし、誠に世人の好模範、家庭の善美なるもの、商業社會に之を見るは恰も是萬花紅白の内に一點の翠色を見るが如し、床しさ云はん方なし。

シツ子は奥の一室にありて今や書簡を認めんとす、折から來客ありとて下婢の報ずるにぞ、名を訪へばナミ子なりと下婢は答へ、シツ子の命により直ちに出て、客室に導びく、シツ子も久しぶりにて遇ひし事なれば嬉しさ限りなく直ちに客室に入りて見ればナミ子は例の活潑洒々たるに似ず、頭を垂れて顔を上げず、禮をなす言葉だに出でざるが如し、春花散落するは風雨の之を打てばなり、ナミ子の悄然たるもの抑も何が故か、シツ子は不思議に堪えねど直ちに其理由を問ふは氣の毒に思ひ、暫しは默して對坐す、ナミ子は良久しうして何をか云はんとす、未だ云ひ出でざるに涙の滴るを見れば其心中如何に苦しき事かあるらんとシツ子は急に問はまく思ひしならん「妾の罪を許し給へ、こし方に於て御身に對する妾の所行實に欠禮の事も多かりき、今より悛めて交情を盡す可ければ乞ふ深くな責め給ひそ、妾今悩み、苦しみ、憂ふ、過去を顧みれば苦痛に堪へざるものあるなり、嗚呼々々と云へるま丶亦云はず、シツ子は之を聞て斯くまで懺悔するに至りし事を喜こび、敎の事杯よく説き「信と愛とにあらば良人の心をも變へしむ可く一家の風儀をも悛めしむ可し、斯く御身が悟り給ひしこそうれしき事の限りなれ、九十九の羊をば殘して迷へる一つを求め給ふ主は、御身の爲めに如何ばかり喜び給ふらん」杯種々語りて互に打よろこぶに至りぬ、此日ナミ子は終日シツ子と語りくらし、夕刻に至りて歸宅せり。

✦ ✦ ✦ ✦ ✦ ✦ ✦

嚴寒身を刺し、雪霜地に充つる朝も、風聲身にしみ、露滴人をして袖を濕はしむる夕も花の色香美はしく、和風習々肌に快きものは夫れ善美の家庭なるか、新日東窓を照す頃、一家數人机を擁して坐し、同志同心以て上帝に謝し、風琴音は瀏喨たる時聲を併せて讃美の歌を唱し、主人傍の聖經を讀む事一兩枚、次で共に伏て祈り且つ謝す、兒一人乙女一人亦父母の傍らに坐す、世外にありては天使も斯くやと思ふ計り美はしく愛らし、祈る事終れば亦た相集て食卓に近づき、快笑

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

の間に食事を爲す、然る後主人は妻子に別を告げて官省に出づ、次で一兒書物を抱ひて出づ、行く所は學校なる可し、少女は保姆に托し、妻君は家事をつとむ、下婢下僕に至る迄、各々爲す所を爲し、務むべきをつとめ、一家和樂の風稱するに餘りあり、夕に至れば兒女門に依て父の歸るを待ち、父は兒女を伴ふて家に入る、和平の樣先に云へるが如し、これ是誰が家ぞ、なみ子の今の家庭なり、何ぞ知らん七八年の昔、亂暴、不愉快、不幸、不和を以て充たすなりし乾燥寒冷の家庭溫風美花の春候となり變らんとは、虛榮何ぞ賴むに足らん、名聲何ぞ求むに及ばん、空利何ぞ希ふに足らん、全世界の富貴も一塊の靈性には如かず、靈性も生きて樂まば望む所として道に叶ふ、故に成る可きなり、云ふ所として理に合ふ、故に行はる可きなり、何をか望まんや。

斯くありにければなみ子としづ子は今や交誼昔時に倍し、遇ふ時は少なくとも語る事はなくとも靈界に眞誠の友情を盡すとなん。

（完）

批評

○やたらじま　　漁象子

美妙齋主人が著にして、春陽堂より出版す。聚芳十種の第三卷に充て、「誠に憂世」「横澤城」「松の下露」の三篇を揭ぐ。末の二篇は左程の作にあらねど、第一は頗ぶる見所ろあり。例の如く、至つて生ぬるき文字もあれど、亦優柔たる言文を驅つて叱咜万軍の勢ほひを生じ、讀む人をしてぞつとせしむるほどの氣力もあるなり。總じて、此類時代小說の作は、主人が當世獨有の長所にして、他の秀才中々に及ぶべくもあらず、南翠外史も倘ほ双び立つと能はざるを感ず。但し、題して、まことに憂世？、と云ひ、？を附して憂世と放擲するに孤疑し、結末「吾から荊棘をば望まずとも世の中に得て花は少ない、それを悲しむのは到底は狂愚、遇も不遇も觀ずれば只の金環一輪ばかり、其果は無盡無究！」と云ふに至りては、所見何如にも懷疑的にして、之と云ふ確識を存せざる心地し、主人が爲に深く痛む。此見を以て觀じ來らば、生滅會離に何の定まれる感覺のあるべき。斯く濫りに悲しみ、徒らに喜ぶとも

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

赤何の面白味かある。一點此着眼を以て顧みれば、全篇の悲憂喜樂ほとんど幻夢の如けん。是れ豈に悲劇を作る人の覺悟ならんや。

○七十二文、命の安貢

やたらじまを讀みて、而して后ち、紅葉山人が新著、七十二文命の安貢に及べば、二君が特性長所の極めて分明に相別るゝとを認識す。「命の安貢」は、極めて短かき端物なれど、山人が得意の筆力を現じて遺憾なし。趣構稍や露伴子にかぶれたらん形跡の見えて、少しく口惜しく思はるゝ所ろもあれど、文章、意想に至りては、純然山人が獨有の調なり。其獨有の調とは、一種の滑稽にして、篁村氏の如く、口頭沸々自づからシャレを吐き出す躰にてなく、美妙齋の如く、之をひねり、之をもみ、飴の如き地口を搾り出すの躰にてなく、又た露伴子の如く、放言漫罵して時々哀笑し大ひにシャレルの躰にてなく、實に言ふ可らざる上品にして可愛氣なる軟滑稽を、折々少しづゝ漏らすの躰にあり。故に、篁村氏は、シャレを交ゆるにあらずして、シャレの中に文章を交ゆるあり、美妙齋は、用もなき所ろに世辭の爲め蛇足のシャレを添ゆるなり、露伴子は、篁村氏の如くむづ／＼としてシャレたきが故にシャレルにもあらず、美妙齋の如く強いて無理にシャレルにもあらず、只だ勝手我儘に氣儘の心持を言ふのシャレなり。紅葉山人に至つては、文章の上よりシャレ、句調の上よりシャレ、意味の上よりシャレ、何如にも其シャレを自から樂しみてシャレルの狀あり。篁村氏は、フット、シャレを吐出すなるべし、紅葉山人は、一應之を賑め、縱横より之を賑め、氣婉に入り、御意に適ひ、自から之をおもちやにせし后ち、之を書現はすなるべし。

十郎右衞門一生蕎麥切を斷ちて盂蘭盆の精靈棚には干瓢をかけしとかや」にて結ぶ、滑稽絶妙、讀者啞然笑ひ倒るゝの外なし。山人は、到底、悲劇を物すべき人ならず、たま／＼人を泣かすとも、乍まち、之を笑はせんとす。又山人は大作を編むべき人ならず、靈妙輕秀なる端物に於て、尤も自由に其長所を現はさんとす。故に、此の「命の安貢」の如き、山人が得意の作として定評するを得べし。

○板垣伯に與るの書

久しぶりにて民友子が得意の人物評を見たり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

家政

家の經濟を持ちし經驗

山下石翁

前號に二つ許り聞込みたるを記し置しが、此度も亦た實際經驗せし婦人方の説を掲げんとす。

扨て、家の經濟を任せられたる以來、何分勘定わわず、わとにてヒヤ〳〵と思ふとのみ多かりしが、或時、女學雜誌にて統計を重んぜよと云ふ文を讀みて、太たく感心し、夫よりは、月々の入金を先づ、食料、お客、臨時費、道具、主人用、屋賃、衣物、子供、貯蓄、雜費の十色に分ちて、夫々は何程と入用を當て、毎日々々の使ひ高を類分けにして、各種の定めの高より減じ、さて毎日々々、もはや何程殘り居るかと吟味し、其殘りやうにて覺悟を極め、一方に餘計入り過たるときは、其次の日より他の方にて儉約するやうにし、成べく餘して貯蓄の方に多く入れるやうにし、一と月の末に至り、幸わひにも二圓五十錢ほど殘しぬ。之にて樂しさ言わん方なく、經濟と云ふものは面白きものと分り、其后は算盤を執るの元氣前方になきほどとなりぬ。必竟日々の勘定と、初めの豫算とを大切にしたる故なるべけれど、其次には、貯蓄と云ふもの、出來たるより、初めて經濟を樂しむものとなり、之を樂しみてより乍ちにして上手となりぬ。左れば經濟を持つ第一の覺悟は、金を餘して貯はふると云ふ心持を造るが肝腎なりと思ふよし。

第四の人の言へりしには、「人ほど安きものなし」と云ふヿを覺悟とし、金は、金だけにては力のうすきものなりと信じて、專ぱら好き人を用ゆるヿを旨としたりとなり。其の心は、たとへば下婢に一圓の人物を使ふと、一圓五十錢の人物を使ふとは、僅かに五十錢の相違あれど、其相違したる丈けの人物が働らきによりては、十圓二十圓の差を生ずると少なからず、大きなる身上にては、夫よりも尚ほ多き差を生ずるヿあり、故に成るべく人を擇み、もし好き人物なりと鑑定すれば、少々給料高くとも、優待して之を召つかうべしと云ふ。又た、此の覺悟は人物を擇むときのみならず、同じ人を使ふときも亦た斷えず此の心持を存し、人に與ふる少々の金は、直ちに生きて數倍の金となるヿを信ぜずばならず、たとへば、是迄一圓にて雇ひ居りし下婢に

其働らきを賞して二十錢を增し與ふるとせよ、二十錢の金は極めて少々なれども、下婢は之が爲めに非常に喜こび一層智を練りてあらん限り勉强すべし、之が爲めに台所元に思はぬ儉約も出來、之れより生ずる利益は何圓と云ふことになるべし。總じて如此く、人ほど安きものなく、亦人ほど高きものなし、人に金を與ふるは損にならず、價あるもの丶內尤とも安きものなり、亦た之に金を吝しむほど高きものはあらず、之が爲め直ちに多くの損を招くべし。さて此の道理を或る人より聞き大ひに感激し、以來其の心持にて人を使ひたれば、御覽の如き身代ともなりぬと、得意貌に語られたる有福の御家さまあり。人を多く使ふものには、此心掛第一なるべし。少なく使ふ人にも亦た大切の敎なるべし。

之に似寄りたる一說は、妻は猶ほ一家の政治家の如しと云ふことを、下婢を使ふにて好く知りぬと申す。妻は餘り細かきこと迄知らずとも、下婢を心服せしむるに足るほどの德さへあらば、下婢は全身を獻げて力を盡し、一家經濟の根本を辨ず。第一に心得べきは、人を服するの德ありと。

隨感

教と學と　しのぶ

宗敎とは、人に人生の目的を悟らしむることを旨とし、敎育とは、此目的に隨がひて人の能力を開發することを旨とすべきものなり。二つのもの若し共に此の大目的に達せずば、何如に巧妙精細を盡すと云ふと雖ども、眞とに能く人を安んじ其德を完ふせしむることを得ず、道に於て何の功あからん。われ宗敎家と云ひて未だ此の安心を有せざるものを見、深く危ぶむ。敎育すと云ひて、只だ人の皮肉を伸ばすの輩ら亦た同じ。必竟是れ定めなく墓なき浮き世の事を樂しみ、全く之に溺れて其實相を辨せざるに因る。一進して、世を墓なみ之を厭ふの人もあり、左れど更に進みて永遠に確定したる道を重んじ、吾に存する至靈の仁性を愛することを知らず、之を以て空しく厭憂し、徒らに困死す。あゝ宗敎に生命加はり、敎育に眞の光現われずば、四千万の吾同胞を何如にせん。

事業　みどり

事業!。あゝ事業と云へる快ちよく男らしき名文字は、何

二一

如に多くの君子を俗殺し去るか。夫れ、人の世に存らふるや、善を爲して人を益し、亦た自らを美にするの外、望む所ろあ る可らず。之が爲めに、怠りなく働らき、常に聖き事業を發達すべきは、當然の事なり。君子が初め其の事業に着手するや、大抵此の潔よき思想に出でざるとはあらず。然れども一たん身を挺して之に從事し、重きを荷ふて營々途を進むに當りては、久しからずして、驢馬が額に汗し、たゞ無意義に勞働すると異なる所あらず、更に惡化して、たゞ其事業を維持せんことを欲し、之が爲め初念に反きて宜しからぬ權道をも催ふすに至る。あゝ如此き權道によりて如何なる善果を世に呈するを得ん、寧ろ爲すなくして正直なる一農夫となるに若かず。われ近頃の事業家なるものを見て、其の才に發けたるを見ると共に、其徳の芥よりも汚らはしきを歎ぜずばあらず。彼等たゞ衣食の事業を爲すと云はゞ、余は之を許す、若し人間の事業を爲すと云はゞ、如此き行爲そも何の功かあらん。何にとあれば、人の事業は、素と、他を益すると、自らを美にすると等の外に存するなければ也。世に惡風を流し、身も亦た徳を落さば、何をもて事業を爲すと云はん。

笑ひ草

好奇心

ふみ予

春は花、秋は月と、四季をり〳〵に世のさまの、移り行くこそをかしけれと、昔の人のいひつる如く、移り行にこそ、世のさまの、をかしさは知らるゝなれ。いつも花咲き、月照りたらんには、花にもやがて詠め飽き、月もいつしか、光を失ふやうになりぬべし。されば景色と共に、人の心の其折々に移り行くは、あわ〳〵敷やうなれども、是亦人の心を新にし、魂を活かすの、天工とやいはまし。さわれ、眞面目なる世の出來事に就て、人の心の、四季をり〳〵に移ろふがごとく、移り行かんには、國民の氣風、人間の見識てふもの失せぬべければ、こは心すべき事にこそ、されば近頃或人の説に、人間の好奇心は、一種の病なりといひしと聞きぬ、もし此好奇心一種の病ならんには、廿四年の日本人民は、別て大患に罹りたるものとやいはまし。今年國會の開會中には、種々の奇談ありつる中にも、彼馬糞一件の如き、馬糞こそ議場に投ぜられて、始て畢世の大評判にも預りけめ、其を得たり賢しと、あらゆる新聞記者等がはやし立て、貴重なる紙面幾何を、其日は馬糞

にて塡めたるが如き、新聞記者の好奇心は、おさ〳〵投じたるものゝ好奇心にも劣らざるなれ。又彼鄭某の賣國件の如き、其との果して實際に在りやなしや、其を確かむるよりも、先づ能き新聞種こそござんなれといふ調子にて、各新聞一時にはやしたてぬ。次には又南洲翁の生存說なり、とり〴〵に噂し合ひ、今はほと〳〵死せる南洲翁を新聞紙上にて活しぬ。是等の事何れも皆、好奇心に外ならざるものにて、彼是と噂する人は何れも此病に、とりつかれたるものといふべし。

夫れに就き一ツの昔し話しを思ひ出せり、いつの頃にやありけむ、都の街に、贅澤屋奇兵衛といふものありけり、金の有るに任せて、衣類持物はいふも更なり、家土藏の建て方に至るまで、珍らしき形の限りを盡し、力めて人の眞似得ぬやうにのみなせり、されば人々も、始めのほどは兎や角の評もしつるが、遂には其好奇心に呆れ果て、何人も口出しするものはなく、只彼男は、奇妙な事をするとのみいひて、此人を度外に置くやうになれり。奇兵衛は夫れを善き事に思ひて、猶も人の肝を挫ぎ呉れんと、知れる限りの人に廣告して、我は未だ妻を持たぬほどに、珍らしき女あらば世話し呉れよ、我は知らるゝ如き奇人なれば、尋常の女にては氣に入らず、世に類ひなしといふ女にてあらば誰にても娶りたしといひ出ぬ友人どもは、常に彼が擧動を、傍腹痛く思ひ居たる事なれば、良き事をこそいひ出けれ、いかで二人となき醜婦を世話して、彼を困らせやらんものと、物好きにも所々を搜して、遂に丈は人並より五寸ほども低く、足は片足短くて、眼は右の方飛び出、其上菊石の跡、見事に付きたる婦人を伴ひ來り、いざとて進めぬ、成程多くは得難き醜婦、天晴れ奇物とは思ひつるが、流石に是を妻にするとは、いかに物好なる奇兵衛も厭はしく思ひけむ、考へて追て返事をするといひつるに、友はなか〳〵承知せず、折角稀なる人を伴ひ來つるに貰はじとありては兼ての詞に違ひぬ、若し此人を謝絕せらるゝとなれば、今より十日の内に、是に劣らぬ醜婦を搜して見せられよ、左らば此儘連れも歸るべけども、左なくば注文通りの品故、否やは連歸るまじといひぬ、奇兵衛も是非なく、十日の間所々尋ねさせたれど、其女に比ぶべき醜婦あらず、遂に余義なく之を娶りたりとぞ。

好奇心も募りては、かゝる失策を來すものなれば、今の人少しく、心せられ度事にこそ。

時事

○帝室財産

奇怪の報しば〳〵耳に達す、實に驚ろくべきの音信なり。天下の志士、譯もなき僞善虚飾の禮式にかれこれと言ふは、末節の事なり、何んぞ大ひに怒りて此の怪問題を研究せざる。雷電は天にあり、雲上とかく不分明の現象なきにもあらず。

○議員

或は死し、或は辭職し、幾多の空位を生ずると共に、多少の價格下落を促がし來る。あゝ議員を輕んずる國民は、國民自から輕んずるに均し。吾人は之に需むると重し、之を待すると安くんぞ輕かるべき。

○帝國議會

如何なる相談にても、もし之を洞開して八方より傍聽せしむれば、固より種々の失躰なくんばあらず。出雲の神の會議は言ふ迄もなく、賢明なる大臣が内閣會議と雖ども、若し之を公聽に供ゆれば、有がたき談議のみにはあらざるべし。故に第一回の帝國議會を責むるは可なり、たゞ之を格外に責むると同時に、殆んど之を放擲せんとするに至りては、思はざるも亦太甚しからんとす。蒙古人種第一回の國會としては、先づ非常の出來にてありつるものを。

○西郷來

教授ロムブロースが近頃の大奇論は、人の新奇を好むは一種の病ひなりと云ふにあり。日本人が徒らに新らしき風説を好み、絶て持重堅保の象なきは、一種の大病ならずんばあらず。アテンス人よ、汝等は只だ新らしきことを好めり、左れど新らしきよりも好きこと此にあり。汝等死せるものを活かさんことを願わず、何んぞ死せんとするものを大ひに活かして、之を豪傑にせざる。西郷豈に人以上の人ならんや。

○大原中尉

何によりて自刄するに至りしかは知らず。絶望は志士に耻づべきことあり。われ詮方つくれども望みを失わずとは、道を信じて改革に從事するものゝ常に覺悟すべき所ろなり。幸わひにして命尙ほ存すと聞く、深く自愛して異日の大用に備え玉へ。然りと雖ども、世人が北門に注意せざるや久し。軍事上に於て魯士亞の爲に警戒せずんばある可らず、殖産上に於て

千島群島に留念せずんばある可らず。同胞の少しく大觀せんことを希ふ。

○近頃の文章

新聞紙も史記の如く、雜誌は漢書に似たり、何ゆえ六かしき文字を使わでは意味を現わし難きにや、吾黨の如きは之を讀むだに能わず、何を以て能く解せんや。いよ〳〵福澤翁の文を賞し、いよ〳〵福地氏の文を賞せんとす。

○婦人共立育兒會

其趣意書に云く、近時我國にては公衆の喜捨に依る慈善の諸會おこり婦人にして之を賛けざるものは殆んど稀なるべし、左れども多くは大金を棄捐し又は絹布を寄附するなど身分ある人ならでは爲し能はず、さりとて此のあはれなる幼兒を奈何にせん、こたび同志相集まり何人にても爲し得べき方法を求めて家中用に堪へざる廢物をつゝまやかに貯蓄し之を金銀にかへ育兒の資に充むとす、と。かくて會員は各自の家の紙屑を賣却したるものを寄附し、東京市養育院の病兒、又は府下會員と認ためたる貧しき兒の疾ひにかゝりたるものなどを救ふことを主旨とするよし。而して、會の精神慈善にありて、慈善を吹聽することは希がはざるがゆへに、業々しく廣告などをせず、沈々として木の下ゆく水の流れの如くにし、到底大ひに志を達せんとする計畫のよし。吾人知れる友より之を傳へ聞きて、感佩一と方ならず、深く其事業を賛す。事務所は下谷二長町一番地、小高エツ子方にあり。

○ツルー夫人

府下櫻井女學校を總理する米人、ツルー女史は、病ひの爲め暫らく歸國せんとて、一昨日出發ありぬ。女史は府下に於ける本邦女子教育の率先家にして、從來其手にて愛育されし女學生極めて多し、其志の有爲にして熱心なる、其才の聰慧にして企業の德量に足れるなど、本邦在留の女宣教師中に、凡ならざるの器なりとす。思ふに、女史が多くの事業今や半ば成就すと雖ども前途君を要すること益す〳〵切なり。願はくは篤く自から愛し、日ならずして健かに復た來着あらんことを祈る。

○合種の女

ツルー夫人が事業的の教育に熱心なる如く、同じく傳道的の教育に熱心なる女宣教師を横濱共立女學校のピアソン夫人と

す。夫人が敎育は、敎育と云んよりも寧ろ傳道と云ふ方當れるとを覺ゆ。而して之に添え、橫濱に多きアヒの子を敎育するとを一の大目的と爲されけるに、同校此頃の會議にて、四月以后アヒの子を一切別にするとに定まりしよし。同校幹理方の爲には、此事宜しからざるにあらじ、左れど、彼の憫れむべき合種人の爲には、願はくは、何かの敎育所、別に設立せられまほしきとにこそ。

○德育の勅語注解

文部省の役人が、ヒマを利用して、著作するは固より差し搆ふる所ろあるなし。若し、其注解を公版し、天下の敎育者に向つて、威權めきたる命令などを爲さんとの主旨にてあらば、諸氏は同時に、非常の決心を爲さずんばある可らず。夫れ民間の敎育者は、軟骨人のみにあらず、もし主義を曲げ良心に反かする如き命令を發するに於ては、天下豈に文部省の役人に唯々曲從する卑屈人のみならんや。爲に血を流すとも出で來べし、諸氏豫じめ決心する所ろなかる可らず。軟骨人ほど心易きものはなし、豪骨の人ほど心ぐるしきはなし、左れど到底唯々として從ふと能はざるを何如んせん。

問答

可愛子

問。福澤諭吉、矢野文雄、福地源一郎、中江篤介、森田文藏、饗庭與三郎、依田學海、德富猪一郎、志賀重昂、田口卯吉、植村正久、十一氏の傑著卓篇ともいふべきものは何ですか、又女學雜誌記者嚴本兄の著書中、如何なる書が宜しう御座いますか、御教示を願ひます。（福岡縣筑後國三池郡二川村大字上楠田樺嶋しづ子）

答。福澤氏の文は、時事新報に見へた男女交際論、日本男子論などが宜しいでせう、矢野文雄氏は經國美談、福地源一郎氏は東京日々新聞に出した薩長論、中江篤介氏は理學鉤玄、森田文藏氏は探偵ユーベル、饗庭與三郎氏は「むら竹」、依田學海氏は淨瑠璃批評、德富猪一郎氏は將來之日本、志賀重昂氏は南洋時事、田口卯吉氏は日本開化小史、植村正久氏は眞理一斑などが宜いのでせう、ケレドこれらの書物を諸氏は傑著卓編といふとを好まないのでせう、何となれば、諸氏は今まモツトよいものを書く腕前を持て居るからです、又嚴本兄は別に著書とてはありません、文を御覽なさりたくば、女學雜誌の社說をお讀みなさい。

問。英詩を學ぶには、如何なる書物がよろしう御坐いますか、又始めて英詩を作るもの丶心得をお知らせ下さいまし。（芝諷峰生）

答。讀みますには、ウチルズウチルスの詩集、ロングフエルローの詩集、ゴールドスミスの詩集などが、初歩で早くわかりませう、併し英詩は到底書物では學び難いものです、外人に就てお習ひなさるが第一です。

問。私は至て小膽で、少しの事に驚て困ります、ドウカ直る工夫はありますまいか。（本鄕一青年）

答。先づ擊劍柔術などをなさつて、身体を强壯にし、氣象を快活ならしむるがよろしう御座います、軍書類を御覽なさるもよろしう御座います、又靜に坐して氣を丹田に沈め無念無想に至ると、禪を學ぶと、又基督教を研究し信仰するとは最もよろしう御座います、猶女學雜誌本號の見鑑、及び第二百五十一號の雜錄坂田金時と源賴光と題する文を御覽なさい、御參考の爲めに。

問。貴社の通信女學は、一年生をもお募りなさいますか。（熊本まさ子）

答。一年生、二年生と別けてはありません、ナゼなれば、一年で全科を卒業致しますからです、去年卒業したのは、一期生です、今年は二期生を募ります、一期生も、二期生も講義錄は同じです。

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

通信

可愛子編

●高知縣通信

●高知育兒會　墮胎壓殺の惡風を矯正せんとて、今より二十餘年前坂本某の創起により、兒を育つるの會立ちぬ、後ち本願寺の手に渡り、明治十四年より、今の育兒會の名を以て設立せられぬ、當今の維持法は、縣有財産、及び有志者の寄附金よりなれる資本の利得金、並に他の寄附金員物品を以て維持す、目下金額五萬圓あり、其大半は縣有財産なり、明治十四年以來、養育補助したるもの五百九十一名なり、救助の方法は、一時五圓を與ふるものと、二年間二十圓を與ふるものと二樣あり、孰れも出生以前に、親族、隣家調印の上、助け手なき極困者たるを證するものに限る。

●産婆教授所　は善良なる産婆を養成して、時の必需に應じ、併せて高知育兒會の目的を達する手段として、縣廳よりの命令により、明治二十一年七月、育兒會内に建築し、開業したり、卒業期限は十八ヶ月なりといふ。

●西京通信

●盟律女學校の紀念式　西京上京區御幸町二條上る盟律女學校は、去る二十年四月創立にして、滿四ヶ年目なるを以て、本月一日紀念式を行ひ了りて、校長職員は、生徒を引率して、工藝博覽會を見物したりといふ。

●岩手縣盛岡通信

●孤兒院設立の計畫　當地のクリスチヤン小技指宗福氏等は、一の孤兒院を建てんとて目下計畫中の由。

●展覽會　當市内四ツ家町天主公教會堂構内附屬建物室に於て、宗教に關する繪畫寫眞肖像諸器物を陳列し、去月卅一日より五日間縱覽に供したり。

●教諭の辭職　農學士太田正、學農社出身の齋藤源五郎兩氏は、岩手尋常師範學校教諭を辭せり。

女報

可愛子編

●宮中觀櫻會　近々宮城に於て、觀櫻會の御催ふしあらせられ、勅任官以上にして、十五歳以上の令孃を召させらるゝを以て、同年以上の娘ある向は申出有りたしと、去る三日式部主事より、勅任以上の官吏へ通報したり。

●能樂御覽　皇后宮陛下は、去る六日午前八時三十分御出門、芝の能樂堂に成らせられて、能樂を御覽遊ばさる。

●故一品邦家親王妃景子殿下　は本月一日、大磯より御歸京。

●伏見宮御母君には兼て大磯へ赴き居られしが、此程御歸京あらせられたり。

●跡見女學校卒業式　は去る五日、芝公園内紅葉館に於て執行せり。

●慈惠醫院施療及寄附　芝愛宕町二丁目東京慈惠醫院に於て、去月中の施療患者は七百八十人、此日數七千六百四十日、内入院患者九百四人、此日數千八百三日、外來患者六百八十六人、此日數五千八百三十七日なりと。

●女子高等師範學校長中村正直氏は本月一日、義任一等に叙せられたり。

●下女の雇錢　今度其筋に於て、農工及び諸雇人の現時平均賃錢を取調べしものゝ中、下女の給料を見るに(上等)一ヶ月一圓五十錢(中等)一ヶ月一圓(下等)一ヶ月七十五錢なり。

●禁酒會員の親睦會　東京禁酒會員は、去る三日午後一時より、日本橋區呉服町の柳屋に於て春季親睦會を開きしが、茶菓子には鮨、牡丹餅、團子等を用ひ、懇親なる清談を爲して散會せし由。

●税金減額出願却下せらる　千住板橋品川新宿等の郡部娼妓收税の義に付、聯て減額の義を府廳へ出願せしが、遂に許可せられざる旨、指令されたり。

●賣淫者も亦た拘引す　下谷警察署にては、是迄も竹町原の賣淫は嚴重に取締り居りしが、目下賣淫益々盛んになりしかば、是迄婦人のみ拘引せしを、以後は男子をも拘引し、父母兄弟を召喚の上説諭を加へる事に爲したり。

●同志社看病婦學校の卒業試驗　來る廿六日、上京區烏丸通上長者町下る同校に於て第二回卒業試驗を執行せり、卒業生は看病學、産科、實地看病法、家庭衞生法、解剖、生理、繃帶施用法、副木製施用法、創瘍治療法、醋化繃帶、電氣各種取扱方法施用法、道義學等の全科を終りたるものにて、卒業の上は、公私の病院に從事し、又は公衆の雇聘に應ずる筈なりと云ふ。

●滋賀縣私立高等女學校　は去る二十八日、大津小學校講堂に於て卒業證書授與式を擧行したり、當季の本科卒業生は十二名なり。

●和歌山師範學校女子部　は本月二日、開業式を行へり。

●鈴木雅子氏の洋行　同氏は今度看病婦の事に付き研究の爲め、ツルー夫人に同行して、米國に赴かるゝ由。

●兵庫縣下に於ける結婚離婚數　は昨二十三年中、結婚數一万七百五十四人、離婚數三千四百八十八人、年末現在配偶數は二十六万三千四百二十一人にして、之を前年に比すれば、結婚六百五十九人を減じ、離婚七十二人を增し、年末現在配偶數六百二十一人を減ぜりと。

●高場亂子逝く　福岡那珂郡住吉村人參畑に住し、人參畑の女先生と呼ばれし高場亂子氏は、去月三十一日病沒せられたり、氏は性謹嚴明活、氣象剛邁なり、氏の薫陶を受けたる名士は、故玄洋社長進藤喜平太及び今の頭山滿氏等を始め、數十名の多きに及べりと、氏今や長く逝けり、惜むべし。

●憐れにして哀くしき話　青森縣盛岡市三戸町の裏長家に住む、士族星合安道と云ふは、今年五十路の坂を超え、妻は兩三年前に此世を去り、跡に殘るは長女の

おせん(十六才)次女おみよ(十二才)三女おはな(十才)のみなるが、家主安道は近在を廻る催促人に雇はれ歩く故、家に居ることては稀なれば、三人の娘は多く留守居をなし、時々父より送り届くる僅かの金子にて、辛くも其日を送り居たりしが、此頃に至りて如何なる故にや、送金の途絶えたれば、止むを得ず多くもあらぬ雜具を賣り拂ひ、粥など啜りて過し來りしも、忽ちそれも續かずなりぬ、詮方盡きて此旨父に云ひ送らんと、弱りし手に禿れたる筆をとり、漸く書翰を認めたるが、貮錢の郵税のある筈なければ、餘儀なく爐の火棚を取り卸し、近所の古道具屋に賣りしに壹錢五厘を得たり、まだ郵便錢には不足なれば、今度は毎日用ゐ來りし小桶を五厘に賣り渡し、それにて郵便丈は出したりと、されど其後は全く食ふべき物とてはなく、姉妹三人は薄き襤褸一枚にて、外出することも叶はず、塵と埃に滿々たる荒屋に泣き暮してぞ居たりける、扨て三女のおはなは、是迄仁王學校に通學なし居たりしが、かゝる始末なれば出校することもならずなりぬ、そを案じて、おはなの友にて、同校四年生なる帷子小路士族松田某の孫娘おそめ(十一才)が女學校の歸りに星合方を音づれたり、見れば、憐れや姉妹三人は容貌いたく痩せ衰ろゑぬ、おはな 早くもおそめを見つゝ、ワッとばかりに泣き出せり、生來利發のおそめなれば、子供心に不審に思ひ、「何うしたの」とやさしく尋ねければ、姉のおせんは年嵩丈に「實は今日で三日が間御飯を喰べずに居ります」と涙ながらに言ふを、おそめは驚き悲み、寒むさうなる姉妹の樣を思ひやり、自分が着て居たる羽織を脱ぎておはなに着せ、年にも似合はずよく三人を慰め、涙に目元を腫らしつゝ、家に歸りぬ、やがて其始終を兩親に告げしかば、兩親は娘の健げなる志を喜び、且つは驚き、時を移さず辨當を用意して、彼の三女を勞はりたり、殘る隈なき松田一家の好意、之を聞き知りて米や味噌を惠む人もありたり、又此事の一たび新聞紙上に掲げられてより、慈惠金を施與したるもの多かりき、特に市内々丸に寄寓し居る耶蘇教宣教師英人ポート氏は、此の三女の事をば、痛く憫然に思ひ、三人とも自邸に引き入れ世話せんと、其趣を語りければ、長女おせんは「私一身の上なれば責めては少しの御用に立つべきも何分頑是なき兩個の妹まで御厄介になるとは甚だ濟まぬことなり」と辭しても其美くしき心確として辭退し、四ッ屋派出所の巡査諸氏も種々說き諭せども固く辭退する故、妹の二人は星合の親類を諭してその方に引き取らしむることになし、長女丈はポート氏方に引き取ることになりしと云ふ、昔しイスラエルの一少女が勸めは、スリヤの大勇士ナアマンの癩病を愈したるが如く、年端も行かぬ杉田そめ子の優しき心根は、幾多の慈善家を呼び起し、遂に星合の一家を救ふ端緒となりぬ、アヽ優しき少女、憐れなる三女、内外の慈善者、人情の美花は此間にぞ開きける。

●福嶋縣立福嶋驅黴院 は去月三十一日限廢止し、更に縣下各所に、娼妓黴毒治療委托醫を設け、本月一日より施行せりといふ。

●北總廢娼同盟會 は追々加盟者有り、村長其他の有力者は大概賛成者なり、廢娼の第一着手として、貸座敷全廢を縣知事に請願せんとの計畫なり、又貸座敷營業者の宴會等に出席することを拒絶し、止むを得ず出席せざるを得ざる事情有るときは、同盟會員は退會するの議決をなさん爲め、近日會員の集合を爲す筈なり、又た或る會員中には、各自の娼妓に就て其不正業なるを說き廻る者有り、或は遠く猿島郡にまで出張して遊說し居る者有り、尙ほ聞く處に據れば、右同盟會設置以來古河中田の貸座敷は幾分か不景氣を來したる爲め娼妓雇入を見合せ居るもありといふ。

●外國婦人日本軍鑑の帽章を用ゆ 近頃横濱にては歐米の新風俗やゝ流行して、往々軍鑑の號名を取て帽章に付するものあれども、我が帝國軍鑑の名を用ひるものは極めて少なく、多くは之を英米の軍鑑に取るものゝ如くなりしが、目下同港碇泊の英國軍鑑鑑長某氏の夫人令孃は、我が筑波鑑の號名を取りて帽章に付けたりとて、其帽章數個を黒岡筑波鑑長の許へ所望し來りたりといふ、我國上下の婦女子達も、徒らに俳優の紋所を簪に挿みて喜ぶ如き浮華卑褻に陷るなく、此の壯潔高尙の氣風に倣ふては如何。

●露國にての慈善會 今回聖彼得堡府の女子教育會は、其構内に於て慈善會を催さんとせり、其の品出を重に婦人小兒の衣服類、其外造花、玩具等にて、代價を低廉にし、博く世の慈善者の心志を滿足せしめんとす。

●オーシー夫人の勝訴 パーチル氏の艶聞事件に坐して、世間に其名の高きオーシー夫人は、ウード夫人の遺產を受けて、一朝俄に大財産家に成りたりしが、三月三日倫敦發の報に依れば、ウード夫人のオーシー夫人に與へんとする遺產に對して、ウード夫人の兄弟より異議を起し、法廷に出訴せしが、本日(三日)其訴狀を却下せられたりといへり。

●倫敦に於ける非雜婚結社 倫敦の貴婦人は、雜婚を非とするの一會社を結び、二月二十一日、初めて雜誌上に其意見を公示したり。

週報

●官令 勅令を以て四月一日警視廳官制の改正を裁可公布せらる●同日警視廳高等官俸給令を裁可せらる●同日巡査本部警察署分署詰公部及消防士消防機關士監獄署記看守長俸給令を裁可せらる●同日警察署長に補すべき警視特別任用の件を裁可公布せらる●同日帝國議會の協贊を經たる豫算外國庫の負擔となるべき契約をなすを要する件を裁可公布せらる●四日同令を以て陸軍衛生部現役士官補充織中改正條例の件を裁可せらる。

●政治 多くの官吏の非免あり●自由黨員の政談演會あり。

●經濟 三月三十一日陸奥農商務大臣神戸商業組合會議所に於て演說す●四月四日日本織物會社の株主總會あり。

●彙報 四日衆議院議員小林雄七郎氏病沒す●六日西大審院長沒す。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

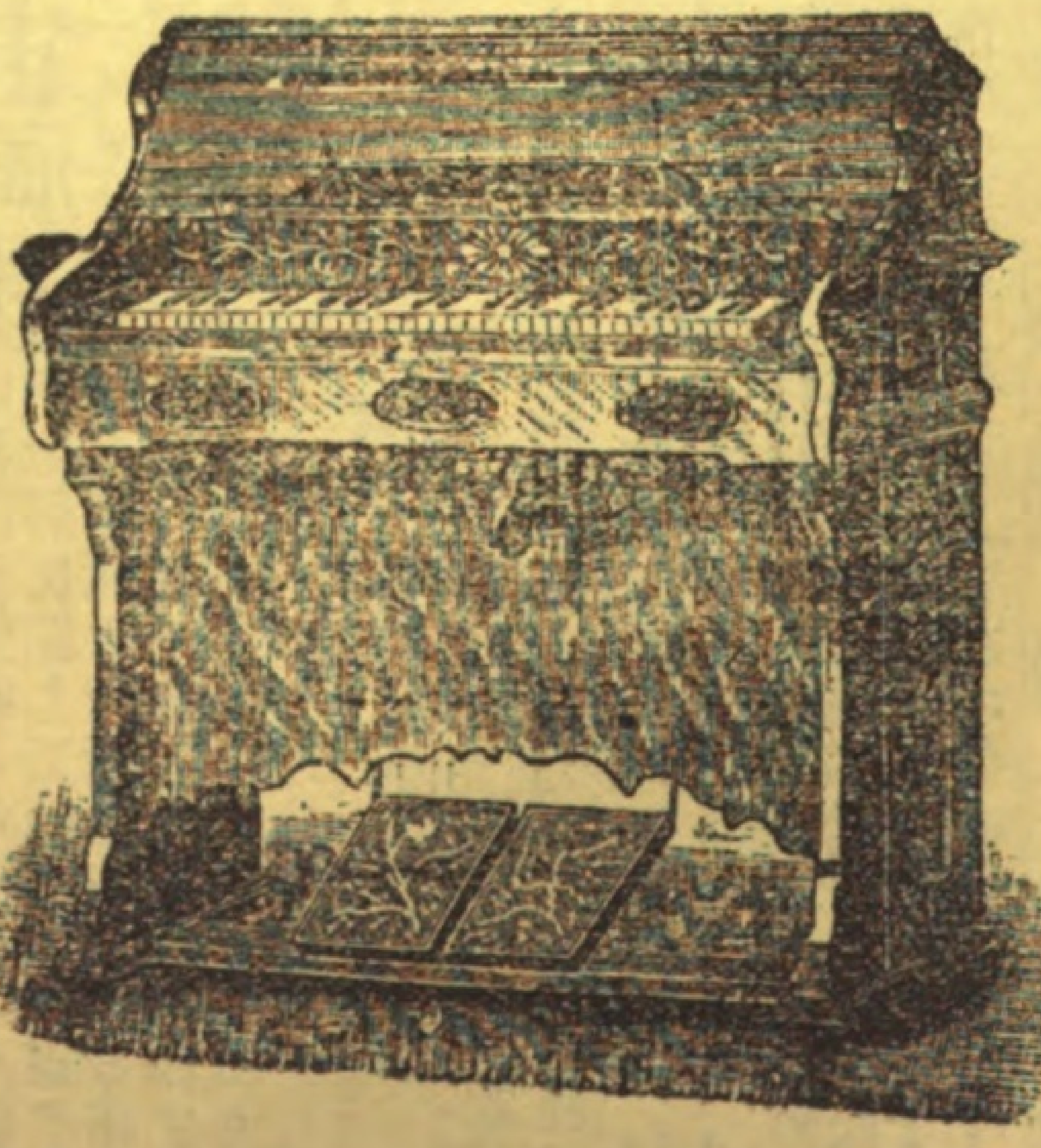
品名	四月九日
白米（一円ニ付）一等米	斗升合 一〇〇
二等米	一〇三
三等米	一〇九
四等米	一一三
五等米	一一六
正米（一円ニ付）越中米	斗升合 一五〇
美濃米	一四六
尾張米	一四五
肥後米	一四一
一志米	一三八
雑穀（一円ニ付）本貫大麥	斗升合 二四〇
上州小麥	一五〇
竹林麥	一四〇
梅澤大豆	二〇〇
青柳大豆	一九〇
吟小豆	一五〇
白胡麻	一二〇
黒胡麻	一三五
鹽（一円ニ付）赤穂	俵分厘 二八五
大鹽	二九〇
本齋	四一〇
新齋	四四〇
醬油（一円ニ付）最上	樽分厘 八〇
極上	八八
上物	一三〇
中物	一八〇
並物	二二〇
味噌（一円ニ付）地製上白	貫 六、六〇〇
同上赤	六、六〇〇
同紅赤	四、六〇〇

品名	四月九日
絹糸（一円ニ付）本練花色	目 二五〇
色物上々	二四〇
赤白同	二四五
延糸同	二一五
芥子糸同	二六〇
薄色同	二三五
色物太練	二五〇
羽二重糸	二四〇
紡績器械糸	四三五
同色物	四一五
眞綿（九貫目ニ付）上入金	円 一三一、〇〇
並入金	一二六、〇〇
無銘	一二〇、〇〇
花色絹糸好	
生七十匁附	円 四、〇〇
同八十匁附	四、四五
同九十匁附	四、八五
同百匁	五、三五
同小節絹	
生八十匁附	円 三、二〇
同本秩父絹	
生百四十匁附	円 四、五〇
濱縮緬（百目ニ付）	
大巾上馴	円 五、〇〇
小巾百廿目	五、六五
同並	五、三〇
六丈絹猩々紅	
五十目立並	円 五、七〇
同別仕入	六、二〇
白木綿（一円ニ付）	
玉鶴	反 三、六〇
綾鶴	三、九〇
日ノ出鶴	四、〇七
若柳	三、一七

品名	四月九日
製茶（一貫目ニ付）山城江州稀頭	円 二、四〇
同大頭	一、九〇
同小頭	一、六〇
同中茶	一、〇〇
狭山稀頭	一、七五
同大頭	一、三五
同中頭	一、二〇
同中茶	九五
鰹節（十貫目ニ付）	
薩摩大	円 一六、五〇
伊豆上	一七、五〇
城の腰同	一七、〇〇
遠州同	一六、五〇
房總同	一五、五〇
銚子節同	一五、〇〇
土佐大	一〇、五〇
乾海苔（百枚ニ付）	
洲崎極上	円 一、〇〇
大森同	一、〇〇
深川砂村同	一、〇〇
大師潮田上	八〇
上總上々	七〇
青海苔	一三
水油（一樽ニ付）	
地水	円 七、六〇
胡麻油	九、七〇
荏油	一一、六〇
桐油	六、八〇
綿油	六、七〇
坂水	八、五八
石油（一箱ニ付）	
チヤスター	円 一、六五
デボース	一、六四
ボーキ	一、六八
ロシヤ	一、六一

高木商店樂器着荷廣告

○弊店義兼テ歐米ヘ注文致置キ候ピヤノ。オルガン。ヴァイオリン。並ニ歐米諸大家ノ音樂書籍數百種今回着荷致候ニ付非常廉價ニテ販賣可致候間御一覧ノ上御購求被下度伏テ是祈ル。



○和製オルガン儀モ近頃諸機械ヲ設置キ凡テ歐米製ト異ナル無キ品ヲ製スルニ至レリ貳拾圓以上百貳拾圓迄數種

○ピヤノ。オルガン等深切ニ調律修可致候

東京市神田區通鍋町拾番地

高木商店

但雛形代價附御入用ノ節ハ御申越次第直ニ郵送ス

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

醫科大學產科婦人科及小兒科病室參考書
群馬縣其他師範學校高等女學幷小學用書
醫學士三島通良先生著

はゝのつとめ

親の巻　妊婦產婦の心得
定價金三十錢　（郵税二錢）

子の巻　日本育兒法
定價金四十五錢　（郵税四錢）

右は我國無雙との好評を博したる母子衞生書なるが今般增補訂正の上再版したりクリスマス婚姻出產の贈物としてもこよなき好品なり。

書肆　通三丁目　丸善。表神保町　中西屋。馬喰町　島利。
春木町　島利支店。通塲町　中央堂。

下六番町　女學雜誌社

鈴木弘恭述。

第三版

百人一首講義

上製美本　五十錢　郵税六錢
並製淡裝　三十五錢　同　四錢

陽春の讀書に宜し　遺物に宜し
歌留多遊びに宜し　詠歌に宜し

女學雜誌社

福音新報

每金曜日發兌

福音新報は福音的基督教の機關にして植村正久氏主として執筆の勞に當り去る三月二十日を以て初號を發刊せり尙次號の紙上には博士ノックス氏のその宇宙神教の批評を揭載し今后も續々泰西神學界の動靜に關して勉めて有益なる報道を讀者に與へんとす嘗て福音週報を愛讀せられたる諸君にありては本誌は巳に舊相識たり今敢て推薦するを須ゐず福音進歩の形勢を知り基督教徒たるの知德を進めんとするものは願くは一顧の勞を吝む勿れ

定價表

		郵税共
一部	二錢五厘	三錢
十三部	卅一錢五厘	卅八錢
廿六部	六十錢	七十三錢
五十二部	壹圓十四錢	一圓四十錢

發行所　東京麴町區三番町十番地　福音新報社

外來診察時間

當分午前八時ヨリ正午限但シ入院申込並ニ產科往診ハ從前之通

日本橋區濱町二丁目十七番地千歲座河岸通　楠田產科婦人科醫院

定價

一冊。	六錢	郵税。五厘　（但府内無郵税）
十冊。	五拾八錢	郵税。五厘　（同前）
半年分	壹圓四拾六錢	府外は　壹圓五拾六錢
一年分	貳圓八拾六錢	府外は　貳圓六拾錢

東京市麴町區下六番町六番地
發行所　女學雜誌社
編輯兼發行人　嚴本善治
印刷人　堀口庄三

春天の好伴侶

農學士。寺尾熊三君著

植物學

一冊五十頁
定價十二錢

百花咲ひ、胡蝶すら之に戯むれ遊ばんとす、人や須からく其美妙を研究し、天地の全能を歎賞すべし。此書、植物學を尤とも平易に、尤とも分り易く解明す、今の時に際して、容易く草木一沢の妙理を悟るに至極の好方便を與ふ。定價僅かに十二錢に過ぎず。

林學士。星野慎之輔君著

植物 昆虫 金石 採集法

一冊八十八頁
定價十二錢

之を研究するに採集の法を知らざる可らず、採集法は、天地間の美妙を尤好く家内に集むるの工夫を敎ゆるものなり、植物もしくは昆虫金石を學ぶもの、此法を知らずんば常に野外に實物を藥置くの憾あきとを得ず。今や花開き虫舞ひ、學生よ學生よ君を汝が家に作ひ給へと歌ふ、學生諸君何を以て彼等を家に懇待同伴するの心を起さざる、其心あるものは先づ之を親切に採集するの禮を知らざる可らず。此書甚はだ面白く此法を說き、定價極めて安し。

下六番町六番地
女學雜誌社

女學生

第十一號

一層改良して出で來りぬ、春色鮮明の圖あり花笑ひ鳥歌ふの様紙上に躍然たり、殊に其所載の文は本號に至りて更に一段の美觀を添へたり、閱覽せよ！此新雜誌を。

目錄左の如し

まとひの筵
文章の硬軟二派……天知子
海邊の夢現……暗光子
學校界の三奇觀……如是子
川合君に與ふる書……雲峰生
燈下に感を書す……川合信水

睦びの花たば
鎌倉に遊ぶ(下)……灘深女史
私の婚せざる理由(上の卷)……秋野女史
戀塚を過ぐ……青水女史
内大臣を悼みまつりて……岩崎菊江
吾が希望……筒井くに
憐むべき身の果て……鈴木げん子
露の命……松井せつ子

學びの栞をり
漢文學＝唐詩選の解釋
翻譯考(第二)

寄せぶみ
眞淑の勇氣といふを讀む……川合信水
墓鄉……望鄉生

春の夜ばなし
重盛公の溺死。小堀宗匠の啞然。能因法師のかんなくづ。時平大臣の奢風を改む。德川公珍菓を顧みず。

毎月一回發兌●一冊郵稅共六錢

●女學生全盟各女學校は左の如し
○明治女學校○女子學院○新榮女學校○女子神學校○共立女學校○フェリス和英女學校○頌榮女學校○跡見女學校○立敎女學校○成立舍女子部○女子獨立學校○海岸女學校○長榮女塾○東洋英和女學校○青山英和女學校○金城女學校○高田女學校

女學雜誌社發行

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

天賞堂時計發賣廣告

瑞西國シイベル、フレンワルド横濱新九十番商會專賣に係る時計の精巧堅牢なるは江湖の熟知せらるゝ處弊堂該懷中時計數十種中に就き左の八種を撰擇し廣く之を發賣す

(金側)丁價六十圓十八金廿一形片硝子持出し付金針入龍頭卷懷中時計器械本ニッケル卷上げ聲向ひ爪左アンクル二番より惣石入●丙價七十圓同裏三枚蓋●乙價七十五圓同無雙●甲價九十八圓同裏三枚蓋●各器械構造概略圖の如し●東京市外遞送賃廿錢●(銀側)丁價八圓片硝子廿一形金針入鍵卷懷中時計器械プラチーナ滅金向ひ爪左アンクル●丙價十一圓半同龍頭卷向ひ爪右アンクル●乙價十五圓同本ニッケル卷上ゲ聲二番より惣石入●甲價廿一圓同七所金●各器械構造概略圖の如し●東京市外遞送賃廿錢

右時計は器械の堅牢なる弊堂が說明を待たざる處なり然れども特に御請求の分に限りて左の手續に從ひ正確の保險狀を呈すべし○保險を要せらるゝ場合は御購求の當時と既に御購求の後に在るとに拘らず各一個に付左の保險料を申受べし　一金側金五圓　一銀側金二圓○保險年限は金銀時計共二十箇年を以て限とす○保險年限中は特に諸器械及び硝子の破損修繕油さし磨き直しの手入は無代價とす○保險年限中自然器械の變化を生じ使用に堪へざる事あれば何時たりとも同種にして新規なる者と交換又は原價を返却すべし●保險の有無に拘はらず**御購求後三十日以內に限り交換又は原價の返戻を要せらるゝときは其望に應ずべし**

今回又左の時計及時計附屬品洋服裝飾品各種を發賣す●但し時計は保險手續其他總て前文による

米國製(金側)十八金廿一形無雙龍頭卷懷中時計甲價百五圓●同乙價九十五圓●同十四金甲價七十三圓●同乙價六十三圓●(銀側)同甲價廿圓●同乙價十六圓●同片硝子價十五圓●(金着側)同無雙甲價廿九圓●同乙價廿五圓

瑞西國製(金側)十八金廿一形無雙懷中時計器械本ニッケル卷上げ聲向ひ爪左アンクル二番より惣石入價六十五圓●同十四金價四十九圓●同十八金裏三枚蓋乙價九十二圓●同甲價百十圓●同七曜及日指し付價百四十五圓●同コロノカラフ引打月の滿缺十二ヶ月七曜及日指し付價三百五十圓●(銀側)廿一形無雙裏三枚蓋金針入龍頭卷懷中時計器械本ニッケル卷上ケ聲向ヒ爪左アンクル惣石爪石入價三十六圓●同片硝子右アンクル價廿九圓●同中硝子價廿六圓●同片硝子鍵卷懷中時計器械本ニッケル卷上ケ聲向ヒ爪左アンクル價十一圓●同惣石入價十五圓●同爪石入價十八圓●

貴婦人持時計(金側)十八金十三形無雙龍頭卷懷中時計價廿九圓●同裏三枚蓋價四十五圓●同片硝子價十七圓半●同無雙金剛石裝飾付價六十六圓

時計附屬品 鎖及磁石寫眞入鉛筆其他各種

指環 黃金製見留印付及寶石入各種

洋服裝飾品 腕輪胸飾ピン手ボタン其他各種

交詢雜誌評

○天賞堂の時計　尾張町二丁目の天賞堂より發賣する時計は米國製及び夙に時計の製作を以て世に有名なる瑞西國の製品にしてその器械の堅牢なることゝその構造の精緻なることゝその裝飾の美麗なることゝ何れも世間の好評に違はざる眞品なり尚且購求後三十日以內は購買者の自由に之を取換又は返還するを得て望みに依れば二十箇年を限り之を保險しその年限中は無代價にて之を修復するよしなれば購買者の爲め更に一層の便利なりと云ふべし

東京日日新聞評

○天賞堂の時計　印刻を以て有名なる京橋區尾張町二丁目十八番地の天賞堂にて此程より發賣する金銀時計は歐米製造數千百種の中につき特に器械裝飾の善良完美なるものを撰擇せしものゝ由にて從來舶載の物に比すれば堅牢精緻なる同日の談に非ざるが如し殊に時計一個每に丁寧親切なる心得書を添へ又二十年間の保險を附し購求後三十日以內は物品の交換原價の返却とも購客の望に任ずると云へば自然適意の品物を入手するを得べきなり猶前日來の廣告につき其詳細一覽あるべし

時事新報評

○天賞堂ノ時計　尾張町二丁目ノ天賞堂ニテ發賣スル時計ハ何レモ機械ノ堅牢ナルモノヲ撰ミ購求者ヘ取扱ヒ方心得書ヲモ與ヘ買取後三十日以內ハ交換或ハ原價ノ返却ヲ求ムレハ其望ミニ應スルトノコトナリ

朝野新聞評

○天賞堂の時計　印刻を以て名ある尾張町二丁目天賞堂にて發賣する時計は各種の時計中に就き特に撰擇せしものにて在來の時計に比し機械も餘ほど堅牢精功なるに一個每に取扱心得書を添へ且購求後三十日以內は都合に依り交換又は原價の返却を求むる時は其望みに應ずる由

郵便報知新聞評

○天賞堂時計　彫刻ニ有名ナル天賞堂(京橋區尾張町二丁目十八番地)ヨリ發賣スル時計ハ米國製或ハ瑞西國製ニシテ器械堅牢且ツ裝飾美麗ナルヲ以テ大ニ評判ヨク殊ニ購求後三十日以內ニ現物ガ氣ニ入ラヌ時ハ他品ト取換ヘ又ハ原價ヲ返戻スルヨシナレバ購客モ大ニ安心シテ買求メ望ミニヨリテハ保險ヲモ附シ其ノ年限內ハ器械及ビ硝子ノ破損等ノ修復ハ無代價ナリト云フ

日本人評

○天賞堂の時計　尾張町二丁目の天賞堂より發賣する時計は、歐米各種の製造品中より就き、特に器械の堅牢なるものを撰擇して、一個每に丁寧なる取扱方心得書をも添へ、其上二十年間の保險を附するのみならず、購求後三十日間は、品物の變換、代價の返還とも凡べて其の望み通りに任かすと云へは、購買者に取ては至極便利なりと云ふべし。

東京市京橋區尾張町
二丁目十八番地

天賞堂